

平成22年度 佐賀県立佐賀商業高等学校 学校評価表

1. 学校教育目標
経済社会の各分野で活躍できるように、学校生活のあらゆる機会を通じて商業人として必要な知識や技術を習得させ、生徒の心身を鍛錬する。

2 学校経営ビジョン(中・短期教育目標)
(1)「授業と部活動を真剣に」をモットーに文武両道の教育を推進する。 (2) 基本的な生活習慣を身につけさせ、心身ともに健全な生徒を育成する。 (3) 規律やルールを守り、努力する、心豊かな生徒を育成する。 (4) キャリア教育(生徒一人ひとりの勤労観や職業観を育てる)を推進し、地域社会や日本経済の発展に寄与しうる商業人を育成する。 (5) 教育公務員としての自覚を持ち、資質の向上に努める。 (6) 地域・保護者との連携を強化し、信頼・期待される学校を目指す。

3. 本年度の重点目標	4. 前年度の成果と課題
夢は大きく、あたりまえのことをあたりまえに (1) 明るい挨拶、気持ちのよい挨拶 (2) 授業と部活動を真剣に (3) 自宅学習の習慣づくり (4) 佐商生らしい身だしなみ (5) ゴミの持ち帰り (6) 毎月1冊以上の読書	【成果】 進学・就職とも100%達成(国公立14人合格) 【課題】 (1) 地域から信頼され、魅力ある学校 (2) 基礎学力の定着を図るための学習指導体制の確立 (3) 危機管理体制の強化。

5. 総括表						
領域	評価項目	評価の観点(具体的評価項目)	具体的目標	評価及びその理由	具体的方策	成果と課題
学校運営	学校経営方針	・本年度重点目標の周知	・教職員・生徒・保護者に周知する。 ・周知度を90%以上にする。	B ・周知度90%以上を目標に掲げ取り組んできたが、教職員は当然周知しているものの、生徒で61.7%、保護者が 80.7%の浸透率であった。昨年度の周知率が生徒61%、保護者79%に比べ微増している。	・職員会議や全校集会等で説明する。 ・学校便り、後援会総会、学級懇談会等の折りに周知を図り、具体的取組みを説明する。	・学校便りやHP、後援会総会、学年保護者会等で保護者への紹介に努めてきた。また、生徒にも全校集会やHRで説明してきた。重点目標6項目すべて言えないにしても、おおむね、ほとんどの生徒が内容を理解している。
	教職員の資質向上	・研究授業(公開授業)の推進	・教師一人当たり、年最低1回以上研究(公開)授業を実施する。	B ・地域や保護者に対して、後援会総会時に公開授業を実施したり、県の教育週間時に学校開放週間と称し授業を公開したが、教職員の資質向上に資するような高いレベルではなかった。	・指導方法の工夫・改善のために、各教科での研修や研究の充実を図る。 ・何時でも公開授業ができる体制づくり	・生徒や指導者ともに、授業に取り組む姿勢は良好であったが、教職員の資質向上に資する工夫や改善を図る研究授業ではなかった。 ・一部の授業でパソコンや視聴覚機器を用いた授業が行われたが、各教科ごとの研修や研究の充実が必要である。また、パソコンや視聴覚機器を用いた授業の研究や計画的な
		・観点別評価の研究推進	・観点別評価や学力把握に関する研究を行い、その成果を授業改善に具現化する。	C ・各教科においては観点別評価については教科ごとの工夫をして評価できた。しかし、年度末の評価など統一した評価規準については曖昧なところもあった。	・観点別評価や学力把握に関する研究を行い、その成果授業改善に具現化する。	・すべての教科から年間指導計画と評価規準を作成することが出来た。 ・観点別評価や学力の把握に関する研究が不足しており、評価について指示待ちの状況である。観点別評価や新学習指導要領等の研修会を計画的に行う必要がある。
	開かれた学校づくり	・社会の変化に対応した教育の実践	・年1回は研修を受講する。	B ・3年研、10年研等定められた研修以外にも、教育相談など任意の講座については危機感を持って受講する教職員も見られた。	・県教育委員会や教育センター研修等を活用し、教育環境の変化に的確に対応できる教員の育成を図る。	・人権・同和教育関係、生徒指導関係、各教科部会関係の研修については参加できた。ただ、授業確保や学校行事等の関係で自らの研修希望が少なかった。研修参加への意識を持ち続けるための工夫も必要である。
・一日体験入学の実施		・中学生の参加者数を昨年並み(1000人程度)の参加を目指す。	B ・体験入学を二日にわたって実施し、850名の参加があったものの、昨年度の993名から143名も参加者が減少した。本校の国際経済科が募集停止になったことも要因として挙げられる。	・中学校への学校説明(DVD・生徒代表発表)内容の充実を図る。(学校の特長・3学科の特長を充実させる) ・制服、各部紹介パネル展示等	・本年度より日程や内容について変更したが、保護者アンケートでは「何校か体験入学に参加したが、一番充実した学校であった」旨の感想を頂いた。	
開かれた学校づくり	・家庭や地域への情報発信(鯨の門だより)	・スクールニュース等を随時更新する。鯨の門だよりの保護者への周知度を85%以上にする。	A ・修学旅行や災害(風雪等)の連絡などスクールニュースを活用し、適宜連絡し、保護者もそれを見て判断できるようにした。 ・定期的に学校新聞(鯨の門だより)を発行し、学校の教育活動について情報を発信した。また、生徒用の学校新聞を刊行し、常に学校の教育活動について関心を持たせた。	・スクールニュースや「鯨の門だより」を通じて、学校の情報を公表し、ホームページについては、逐次内容の更新を図る。(閲覧の状況、件数の確認) ・アンケートによる保護者への配布確認、内容の感想	・保護者もよく目を通し、本校も学校教育内容に対し周知してもらった。今後も、さらに魅力ある情報をタイムリーに流し、教育活動についてさらに周知徹底を行う。	

領域	評価項目	評価の観点(具体的評価項目)	具体的目標	評価及びその理由	具体的方策	成果と課題
学校運営	開かれた学校づくり	・学校施設や教育資源の地域への開放	・各機関からの要望に対する開放に向けての条件整備を行う	A ・学校行事に影響がないときは、施設を開放できている。また、11月には4日間学校開放週間を設け、授業参観が出来るようにしている。	・学校施設を各種試験会場や地域行事等に開放する。 ・地域行事に積極的に協力参加する。	・各種検定等の会場、地域団体使用については、学校行事等に影響のないように貢献できた。
		・地域との連携	・「高校生Teacher講座」の3つの講座を担当する。	A ・女子バレー部、フェンシング部、英会話部、情報処理部の4部が参加し、小学生77名に対し部活動内容を指導した。参加した小学生からは楽しかったという感想を得た。	・夏休みに実施される神野公民館主催の「高校生Teacher講座」に参加し小学生への指導をとおり地域との連携を深める。	・本校生にとっても小学生との交流は学ぶことの多い取り組みである。夏期休業中に限定しなければ、もっと多くの部が参加できると思う。
		・学校評議員制度等を活用した学校運営の推進	・学校評議員会を学期に1回実施する。	A ・学校評議員会を開催し、外部の方に本校の教育活動に対し理解を促していただくとともに、率直な意見を求め改善すべき点は迅速に対応できるように努めた。	・学校評議員会を学期に1回実施し、各委員から出された意見を吟味し、学校運営に反映する。 ・学校開放週間に授業を参観していただき、意見を聴取し、授業や行事の改善を図る。	・外部の評議員の方から本校の生徒の様子を開ける機会を得るなど有益であった。次年度は、年間計画のもと事前に会議の日程を決定するなど工夫し、評議員全員が参加できるようにしたい。
		・保護者や地域との連携	・保護者や地域の人を対象に、3回以上公開授業を実施する。	A ・後援会総会時に1日および学校開放週間に4日公開授業を実施できた。保護者には主に担任の授業を参観してもらいウラス担任と保護者の連携を図った。	・後援会総会時に、公開授業を実施する。 ・学校開放週間に全ての授業・部活動等を公開する。	・学校開放週間への参加者数は減少したが、学校開放週間については来年度も続けて欲しいという意見が多数あった。保護者を呼び込む、後援会などのイベント等の検討が必要である。
学力向上	教育活動	・基礎学力の向上	・朝のHRの時間を利用して、漢字テスト・英単語テストを行う。	A ・年間を通して漢字テストを13回、英単語テストを5回実施できた。	・週間行事予定で事前に周知し、家庭での学習を促す。	・実施計画に基づき各学年より事前指導・事後指導を徹底することが出来た。 ・来年度については数学の基礎学力向上に向けての方策も検討したい。
		・授業時間の確保	・出張等による自習時間を年間30時間以内に努める。	B ・事前にわかる出張等については、原則として振替が出来た。また、急な年休についてはそのクラスの属する学年で授業等を行った。	・出張等に関する職員間の連絡を密にして、振替等を確実に行う。	・授業時間の確保のため、出張等については原則振替を行うが、組授業の場合において授業の振替が困難であった。授業展開の工夫が必要である。
		・資格取得への取り組み	・卒業までに全員に1種目以上1級の資格取得をさせる。 ・卒業までに3種目1級以上の取得者数を50人以上にする。 ・卒業までに情報処理科の生徒全員に情報処理1級の資格を取得をさせる。 ・国際経済科の3年次までに、全員に実用英語検定準2級を取得させる。	B ・本年度の卒業生は、3種目37名、4種目33名、5種目19名、6種目22名、計111名の1級3種目以上合格であった。 ・高度資格取得については、日商簿記検定2級合格94名、応用情報技術者1名、基本情報技術者11名、ITパスポート3名、実用英語2級5名、準2級72名の合格者を出すことができた。 ・しかしながら、卒業生の中には、1級をとれずに卒業する者もいたので、来年度は、意識高揚と指導体制を整えて合格するように努力していく必要がある。	・理解度を見るための確認小テストを実施し、到達していない生徒には、補講を実施する。 ・高度な資格を取得させることで、進学に生かした指導体制を確立する。 ・各種検定前の強化指導を図る。(部活動顧問との連携)	・生徒が就職や進学する際に検定資格が重要なときが多々ある。そのような中で高度な資格を取得させるために今後も十分検討し、より効果的な指導が必要になる。
・人権・同和教育の推進	・あらゆる差別を許さない精神と態度を育成する。	B ・人権・同和教育に関する会議や人権・同和教育の職員研修を計画的に実施できた。	・各学期に1回以上、人権・同和の研修会を実施する。 ・各種人権・同和研修会に積極的に参加し、職員の研修に努める。	・人権・同和教育の年間指導計画通り取り組むことができた。来年度の課題として、講師謝礼等の予算が不足しているため、検討が必要である。 ・全国人権・同和教育研究会佐賀大会の分科会会場として大会の成功に協力でき		

領域	評価項目	評価の観点(具体的評価項目)	具体的目標	評価及びその理由	具体的方策	成果と課題
心の教育		・外部講師による講演実施 ・カウンセリングの充実(不登校生徒の減少)	・登校(欠席)状態を把握し、早期対応・早期解決を図る。	・12月からは、「気になる心配な生徒」の調査により積極的な早期発見・支援が可能になったが、それまでは、担任等からの申し出によりS・Cの紹介等をやるといふ消極的待ちの状態であった。やはり同じように待つ(受容)としても消極的待ちではなく積極的待ちであるべきである。また、今回は、生徒対象の教育相談講話は実施しなかった。	・いじめの問題を生徒・職員全体のこととして捉え、「命の大切さ」を理解させるための講演を実施する ・家庭との連携 ・スクールアドバイザーとの連携・協力(教職員のカウンセリングマインドの高揚を図る) ・教育相談カードの活用	・成果～12月から週1回の各学年会で「気になる心配な生徒」の調査をしてもらい、該当生徒担任の心配度を数値化し毎週の連続的な変化を観察した。そのことにより、学年団の共通理解ができ協力・支援体制が確立した。・課題～次年度は、このシステムを4月当初から開始し不登校予備軍の生徒の早期発見、支援、協力の体制をつくりたい。また、教育相談係やS・Cが学年会に入り、情報交換をすることも必要。定期的に保健課(室)・管理職への報・連・相を図りたい。縦と横の情報共有が大切。S・Cの活用として職員研修(カウンセリング技法の研修)と生徒対象の教育相談講話(イジメについて)を実施すべ
		ボランティア活動の推進	・年1回以上のボランティア活動を実施する。	・1年生は5月21日に、2年生は3月23日に、3年生は12月3日に学校周辺の清掃活動を実施した。	・クラスごとに地域を割り当て清掃活動をする。	・生徒の多くは小学生の頃からボランティア活動についての経験があり、ボランティア活動を受け入れやすく意欲的に取り組んでくれている。今後は部活動単位や日常生活でのボランティア活動を育てていきたい。
		・体験活動の実施	・インターンシップの活用	本年度はインターンシップとして「佐商星プラン」を実施した。年間計画のもと、生徒に職場・上級学校についての情報収集など有益な方法	・異年代との関わりを通して、多彩な体験をさせる。	・本年度は1日で実施したが、次年度は1日以上したほうがいいかを検討し、生徒のキャリア教育についてどちらがいいかを早急に検討する。
		・読書の推進	・自己を見直す時間をつくる。	・12月から「心にしみる、ちょっといい話」を週2回、朝のHRで担任より紹介してもらった。(内、校内放送も)	・推薦書の紹介(図書課・教職員から紹介) ・朝読書時間の充実	・成果～充実した朝読書の他に12月から「心にしみる、ちょっといい話」を週2回紹介。(教室掲示もすることで読書推進) ・課題～ネタ話を集めるのが大変。
健康体づくり		・食育の推進	・朝食喫食率を90%以上とする。(生活習慣病の減少)	・今年度はアンケートでの実態調査は3年生のみ行った。91%の喫食率で生徒はおおむね朝食は摂取している。	・実態把握のためアンケートを実施し、生活のリズムの安定を図る。 ・学校栄養士による指導 ・食育関連の情報発信(プリント配布)	・次年度は、1年生で家庭科の科目を履修するので、この時間を活用するなどして、さらに食育の重要性を指導していきたい。また生徒会活動やLHRなどを有効的に活用し、食育の推進を図りたい。
		・進路意識の高揚と希望進路の実現	・進路内定率100%の達成	・進路内定率100%達成。 (内訳) 就職: 106名(39%) 進学: 163名(60%) その他: 2名(1%)	・企業訪問・学校説明会による進路先の開拓と実態把握。 ・進路研究ノートの作成と活用促進。 ・出願書類作成指導の徹底(履歴書・志望理由書等)。 ・面接・小論文対策個別指導の充実 ・学年別の進路ガイダンス・講演会・研修会等の実施。 ・進路希望調査・適性検査の実施。 ・進路だよりの定期的発行。 ・補習授業・実力テストの実施。	・就職は、厳しい経済情勢の続く中で激戦を勝ち抜き、早期に内定率100%を達成した。来年度も雇用情勢の好転は望めず、東日本大地震・津波の影響も懸念されるが、県内外の優良企業への合格者を増やすために、さらなる求人開拓や基礎学力の向上が望まれる。 ・進学は、「行ける大学」から「行きたい大学」へを目標に、様々な入試方法を利用して果敢にチャレンジし、志望校への合格を果たした。来年度も難関大学への合格者を増やすために、一般入試まで対応できる学力養成が望まれる。 ・学年ごとの段階に応じた啓発研修等を企画し、生徒の進路意識は着実に高まりつつある。生徒の実態に応じたより効果的な企画の提案が望まれる。 ・就職・進学試験に対応できる基礎学力の向上のための指導法確立、および3年次の受験対策(面接・小論文など)指導の効率化や役割分
教育活動		・基本的な生活習慣の確立	・皆勤の生徒を5%増やす	他校に比較すると、不登校の生徒の割合も少なく元気に登校してくれている現状で、生活は全体的に落ち着いている。皆勤の生徒もいるものの、体調管理の難しさを感じているのではないと思う。服装の移行時期も臨機応変に対応していきたい。	・「明るい挨拶、気持ちのよい挨拶」運動を推進する。 ・正しい礼儀作法(言葉遣い指導)と佐商生らしい身だしなみ等、マナーアップの呼びかけと指導。	・来客された方や、知り合いの方からもよく挨拶をしてくれて感心しますという言葉を頂くほど、挨拶については出来ていると思われる。ただし、礼儀作法やマナー面では注意することも多く、機会を見ては指導してきたつもりであるが、十分とはいえないと感じている。校内は勿論であるが、校外巡視や指導の回数を増やし、よりよい環境をつくりたい。
		・安全教育の徹底	・交通事故(特に自転車事故)の減少(10件以内)	今年度の登下校中における自転車事故の件数は10件発生し、大きな怪我ではなかったが、9件が登校中に起きたものであった。生徒の不注意で起きたものではなく、双方の注意で防げたものであったため、交差点や一時停止場所などで注意を払う必要がある。夜間に帰宅する生徒も多く、無灯火での乗車についての	・交通指導の徹底と安全教育に対する講話の実施。 ・交通事故マップの作成。 ・集会ごとに交通マナー、危機管理意識の啓蒙を図る。	今年度の佐賀市内での交通指導の報告によると、無灯火での指導数のうち高校生の割合が81%になるということから、オートライト付自転車の推奨が呼びかけられている。また、近辺からの苦情も数件発生していることから、早い時期での交通講話、自転車点検を実施したい。
		・耐性、忍耐力の育成(服装基準の厳守)	・校則を守らせる(服装再検査の減少) ・周知度を80%以上にする。	規則や法の順守という観点からも、授業や登下校中の指導など、多岐にわたって先生方の協力で指導をして頂きましたが目に見えて良くなっているというところではない。校外での生徒に関する苦情もことから今後ともねばり強く指導していきたい。	・生徒指導方針を年度当初に職員、生徒や保護者に明確に示し、定期的にその達成度を確認する。	生徒指導からの服装等の基準等を提案させていただき、職員また保護者への協力も頂いていることから、指導に関する苦情はほとんど頂いていない状況です。ただし、服装再検査の割合は3年生が15%、2年生が17%、1年生が19%であり、来年度はこれを下回るよう協力をお願いしたい。
	・事後指導より事前指導の徹底を図る。	・事件や事故の発生率を昨年より下げる。(10%)	昨年度の年間の指導措置(校長訓戒以上)は2件で、今年度は8件の指導措置を行いました。交通事故もひと月に1件の割合で発生しており、	・事件や事故を起こしてから指導するのではなく、事件や事故が起らないように事前指導を徹底する。	物事を「人ごと」で捉えることが多く、自分を含め反省が多いところである。校内外での事件・事故が発生した後の注意喚起が多く、後手に回った感がある。今年度の事案を参考に指導を心がけたい。	

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	評価及びその理由	具体的方策	成果と課題
教育活動	図書	生徒が利用しやすい図書館の實現	<ul style="list-style-type: none"> 貸出冊数の増加(年間4000冊目標) 読書内容の充実 「朝読書」毎日実施の定着 	B <ul style="list-style-type: none"> 図書展示方法の改善により、貸出冊数は増加し、2月末現在で、約5,100冊となった。 3年生の小論文対策において、対応する図書の利用が進んだ。 「朝の読書」を年間を通して、原則として毎日実施することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 学年や時節に対応した読書指導の実施 三年生の小論文指導とも連係 学級文庫の設置など生徒会図書委員会と連携した啓蒙活動の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒個々の要望に対応できる蔵書の充実、年間を通しての読書指導が必要。 「朝の読書」に関しては、日々の指導が不可欠であり、生徒職員ともに意義の再確認が必要。
			<ul style="list-style-type: none"> 参加意識の高い学校行事を作る。 	B <ul style="list-style-type: none"> 文化祭では1年生は合唱、2年生は展示、3年生は模擬店を実施し全てのクラスが関わることができた。 体育祭では部活動単位で競技補助員を務め、自分の役割を果たすことができた。 様々な行事で、生徒の出番を増やすことを目指した。 	<ul style="list-style-type: none"> 企画の段階から生徒の意見を聞く。 発言や発表の機会を増やす。 司会やお礼の言葉、浄書などできるだけ生徒に任せる。 準備に時間をかけ満足度の高い佐商祭(文化祭・体育祭)を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 所属感、役割感が高まれば、充実感が高まるという仮説を立て活動してきた。今後とも充実を図る。
	特別活動	生徒の主体的な取り組みを増やす。	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会の月目標を決定し実行する。 各種委員会活動を月1回行う。 	B <ul style="list-style-type: none"> 生徒会だより、検定スケジュール、アスリートタイムズなど、目的別に広報紙を生徒自身の企画で作成した。 生徒の発案で、掃除の時間を楽しく、しつかりきちんとやれるように音楽を流すようにした。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎月の目標をクラスで話し合い、それを基に全校での月目標を実行する。 クラス役員としての自覚を高め、委員会活動を活発に行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 後期は全校目標についての取り組みが不足した。 活動が不活発な委員会もあるので、自分たちでできることを考えさせていきたい。
			<ul style="list-style-type: none"> 部活動の活性化 	B <ul style="list-style-type: none"> 部活動入部率95%以上を目指す。 今年も合格者登校日に部活動紹介パンフを配布し、新入生の意識を高め入部を勧めた。5月1日時点での入部率は94.2%であった。 	<ul style="list-style-type: none"> 体験入部期間を設定する。 退部届の活用で退部者に対する追指導を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 家庭の都合を理由に入部しない生徒がいる。 退部届の利用を徹底し、退部者に入部希望部を必ず記入させ再入部に務めた。
		勉強と部活動の両立	<ul style="list-style-type: none"> 部員の学習に対する意欲を高める。 	B <ul style="list-style-type: none"> 真総体では男子バレー、男女水泳、男女フェンシングの計5本の優勝旗を得た。商業系の県内競技会では多くの部門で優勝であった。OAI部の九州大会速度の部団体優勝は初の快挙であった。 	<ul style="list-style-type: none"> 原則として週1日の部活動の休養日を設定する。 定期考査期間中は部単位での勉強会を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 運動部の生徒にも大学進学者は多いので、勉強は当然必要である。このことを様々な機会でも伝えていく。 全ての部が週1日の休養日を設定するように呼びかけていきたい。
			<ul style="list-style-type: none"> 部室管理の徹底 	C <ul style="list-style-type: none"> 学期に1回部室検査を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 清掃状況が悪かったり、鍵の職員室への返還が遅かったり、持ち帰り指導の際に教科書等を部室に隠す生徒がいるなどの問題があった。 	<ul style="list-style-type: none"> 部室の清掃状況や備品の使用状態を点検する。
		ヘルスプロモーションの促進	<ul style="list-style-type: none"> 感染症予防と定期健康診断の事後指導の徹底 	B <ul style="list-style-type: none"> 麻疹予防接種94.5%とわずかながら目標に達しなかった。 視力69.9%、歯科41.1%と視力については、目標に達した。保健室からの再度の指導と部顧問への受診状況を知らせたことも向上のつながった。 	<ul style="list-style-type: none"> 学年主任・担任による指導。部活動・保護者会での啓蒙運動を行う。 三者面談を利用し、保護舎の理解と協力を得る。また、2学期に視力の再検査を実施し、保健指導をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 学年主任、担任の指導に加え、部活動顧問からの指導もあり受診率向上につながった。また、視力の再検査を実施し個別指導をしたことで視力の受診率のアップにつながったので来年も再検査を実施したい。
			<ul style="list-style-type: none"> 自分の健康課題に気づき、意識改善、実践のできる生徒を育てる。 	B <ul style="list-style-type: none"> 保健だよりを定期的に発行し、時期を捉えて啓蒙することができた。 また、保健委員会活動のひとつとして、今年も文化祭で保健企画を実施することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 「保健だより」・掲示板・保健講話・委員会活動を通じて、全生徒に心身の健康づくり・安全衛生に対する意識の啓蒙を図る。 学校保健計画に基づき、本校の現状を踏まえて保健指導を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 保健講話や研修会は、心身の健康のために必要な知識を深めることができたことが生徒のアンケートや感想文からうかがえた。「保健だより」は、月1回(臨時発行もあり)生徒保健委員や保健室でタイムリーな健康・安全などについての話題や情報を提供した。今後更にも心身の健康や安全衛生についての情報を掲載し、生徒、職員に保健に関する意識を向上させたい。

領域	評価項目	評価の観点(具体的評価項目)	具体的目標	評価及びその理由	具体的方策	成果と課題
教育活動	保健	・ゴミの減量化	・ゴミの量を昨年度より減らす。(5%以上)	B ・ゴミ分別については、大體徹底できるようになってきたが、ゴミの減量化については前年度と比べあまり変化がみられなかった。ただ、部室や各分室から出るゴミは、減少した。	・委員会活動を通して各クラスから出されるゴミの量を減らす。 ・各自持込んだものは責任を持って処理すること(ゴミ持帰り運動の推進)	自分が出したゴミは、自分で持ち帰るという行動を周知させていきたい。クラス単位での啓発と共に生徒・職員一人ひとりの美化意識の向上を目指したい。そのために、ポスター掲示や標語づくりなどを行い、美化委員会の更なる活動力を高めていきたい。
		・教育相談体制づくり	・不登校生徒等への支援体制を確立する。	B ・評価B 管理職やその生徒に関わっている全ての教職員・保護者、そして教育相談係りとS・C等が継続して適切に支援してきたが、各生徒の進路変更等により中退した者もいて全員を復学させてやる事ができなかった。また、各生徒の成長過程は各々異なるので、各人に応じた支援や経過観察が十分に為されたか今一度反省してみる必要がある。	・講演会や保健便りを通じ、心の教育や安全教育の充実を図る。 ・保健室と学年会(担任)および教科担当との連絡会を通じて、不登校生徒への理解と支援のあり方を検討し、協力体制を確立する。	・成果～12月から、週1回実施の各学年会で「気になる心配な生徒」の調査をしてもいい、該当生徒の担任の心配度を数値化し毎週の連続的変化を観察した。そのことにより、各学年団の共通理解ができ協力・支援体制が確立した。・課題～次年度は、このシステムを4月当初から開始し不登校予備軍の生徒の早期発見、早期支援・協力体制をつくりたい。また、教育相談係やS・Cが学年会に入り、情報交換をすることも必要。定期的に保健課(室)・管理職への報・連・相
		・施設・設備の安全管理の徹底	・ケガや事故を未然に防ぎ、日本スポーツ振興センターへの手続きを5%減。	B 日本スポーツ振興センターへの手続きは昨年度よりやや増えた。部活動・体育の授業でケガをする者が多かった。生徒の注意力不足や運動中の負荷をかけたすぎた動きによるものが多かった。	・安全点検の結果に基づき、再点検を毎月1回行う。 ・学校安全計画に基づき本校の現状を踏まえ対人管理・対物管理を行う	学期1回の全職員による安全点検とその後の月1回の保健課による再点検を行うことで点検は徹底できた。事務室との連携により改善状況の確認まで行う必要がある。
		・保護者との連携	・後援会総会への参加率を70%以上にする。 ・学年別保護者会の内容検討(参加率50%以上) ・九高P大会を成功させる。	B ・後援会総会の出席率は全体として約65%であった。 ・学年別保護者会は新しい試みとして学校生活の様子を約10分位のビデオに編集し保護者の皆さんに見ていただいた。出席率は全体として約35%であった。	・授業を公開(主に担任による授業)することで、多くの参加を促す。 ・学年保護者会の実施時期と内容等の検討。 ・出来るだけ多くの保護者に参加を呼びかける。	・後援会新聞「恒星」の第2号が発行できた。 4月から編集会議を何回も重ね11月末に完成できた。また6月の九州地区高等学校PTA連合会大会佐賀大会も無事に成功裏に終える事が出来た。 ・学年別保護者会のあり方について検討する必要がある。
		・個人情報保護と情報漏えいの防止 ・学校ホームページの内容充実と定期的更新	・定期的調査と職員への意識強化 ・最新情報のアップに心がける。(各関係部署からの情報収集)	A 今年度はホームページを新規に作成して2年目になる。周囲からの評価も高く、更新も担当がこまめな情報収集を心がけていた。また、チェックリストも先生方の意識向上に伴い、遅延もほとんどなく、提出していただいた。	・情報セキュリティ月ごとの調査実施 ・学校行事や部活動の結果をいち早くホームページで知らせ、学校のPR活動に生かす。	情報管理は教務や進路など、様々な分掌との連携で成り立つ分掌である。現在は他の分掌との掛け持ちの職員が多いため、出来るだけ専念できる職員を配置したい。また、学校パンフレットなど、校外にPRする資料などは一括して情報管理で取り扱ってみてはとおもう。
		・学校の重点目標に則した学校行事の実施	・学校行事の精選と授業時間の確保	B ・学校行事における授業時数減を最小限にとどめるように工夫し、定期考査後に実施できるものについてはできるだけ定期考査終了後に実施した。	・各課との連携を強化し、内容の充実と精選により、授業を確保する。 ・学校行事を考査後に実施する。	・各教務分掌・各教科等の協力を得て、考査終了後の行事や外部講師による講話を実施できた。 ・定期的に行う運営委員会で学校行事の精選に向けた検討を行う。
		・家庭学習の時間確保	・毎日最低1時間の確保	C ・アンケート調査の結果、1年生で17.5%、2年生で19.8%、3年生で10.9%の生徒しか1時間以上の家庭学習時間が確保されていない。昨年度、1年生で17.4%、2年生で15.7%、3年生で12.8%だったので改善されていない。部活動に所属している生徒や遠方から通学している生徒も多く、疲れや帰宅時間が遅いため学習時間が十分に確保できていない。	・各教科・科目で課題を出す。(提出期限の厳守と未提出者の指導)	・各教科で宿題や課題が出ているが、提出期限が守られていない生徒も多い。 ・アンケートの実態を捉え各教科や部活動顧問との連携を図り学習時間の確保と学力向上を図る。
		・基礎学力の向上	・漢字テスト、英単語テストの不合格者数を学年5%以内にとどめる。 ・学習に取り組む姿勢を身に付けさせる。 ・課題の提出率を100%にする。 ・真剣な授業態度を育成する。	B ・不合格者は5%以内になるように指導を行った。 ・真剣に授業に取り組むような雰囲気を作った。 ・各教科で生徒の理解度を増すため、また日々の授業を真剣に取り組むためにも課題をこまめに提出させ、教育効果をはかった。100%までにはいかなかったもの、おむね生徒はまじめに提出した。 ・まじめに授業を受けるように機会がある度に指導を行いおむね達成できた。	・実施計画に基づき、正副担任の連携を図って、事前指導・事後指導を徹底する。 ・ホームルーム時の有効活用により、定期考査前の指導強化を図る。 ・課題提出状況のチェックを確実にし、未提出者に対する指導を徹底する。 ・始業チャイムの前に着席させ、授業の準備をさせるとともに、居眠りや頬杖をつくことのないように、常に注意を払う。	・進学はもちろん就職する生徒も基礎学力の定着が必要である。そのために様々な工夫が今後も必要である。また自宅学習時間の確保も本校の今後の課題である。

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	評価及びその理由	具体的方策	成果と課題
1学年の教育活動	生活関係	・基本的な生活習慣の確立	・保護者との信頼関係を構築する。 ・全クラスで出席率95%以上を目指し、長期欠席者を未然に防ぐ。 ・違反行為者「0」を目指す。 ・教育環境の整備を図る。	B ・担任、家庭、または部活動顧問との連携により生徒指導上の特別指導は0であった。 ・出席率は学年全体で98.87%で目標達成できた。特に1年1組、2組、3組、4組、6組は99%以上の出席率だった。	・担任・副担任・学年主任と保護者との連絡を密にする。 ・長期欠席者対策として、保健室や教育相談と連携し、スクールアドバイザー等に相談しながら、早期解決を図る。 ・ホームルームや学年集会等を利用して、違反行為を未然に防ぐ指導を徹底する。 ・教室のロッカーの整理整頓や担当掃除区域の清掃活動の指導を徹底する。	・皆勤142名、精勤65名とほぼ半数の生徒は毎日元気に登校し学習や部活動を行うことができた。来年度はさらに多くの生徒達に皆勤を目指してほしい。 ・不登校生徒2名については、一人は高校卒業認定試験に合格し、進路変更という形で退学した。あと一人は、原級留置となるが、4月から登校したいという意志を表明している。 ・校内での挨拶、礼儀を始め基本的な生活は身に付いたが、校外でのマナー(制服の着崩し、交通ルール違反等)を指導徹底させることが課題である。
	その他	・進路希望の達成	・職業意識・進路意識を明確に持たせることにより、進路希望達成のための具体的個人目標を100%確立させる。	B ・全体的にはまだ時間があるせいか、進路については未だ、真剣に具体的に考えることができない生徒もいる。	・ホームルームや学年集会等を利用して、進路ガイダンスを行い、職業観を養うとともに、自己の適性を見出させる。 ・進路(就職または進学)に対する考えを明確にさせ、進路希望達成のために必要な検定資格取得の指導を徹底する。	・1学期に1度の割合で進路ガイダンスを行い、自己の適性を見つける指導が持てた。特に3学期は「進路啓発」に時間を割き、講演会などをとおしてよりより職業観を身につけさせることができた。
	その他	・部活動の活性化	・文武両道を前提としながら、95%以上の部活動加入率を目指す。	B ・徐々に部活動を退部する生徒が増えたが、ほかの部活に入部してくれたため、全く部活に入っていない生徒は、30名程度であった。	・担任団を中心として、機会あるごとに生徒への声かけを行い、部活動加入率アップを図る。 ・部活動が教育の一環であることを確認し、部員が挨拶や礼儀を身に付け、学校の中でリーダーシップを発揮できるよう育てていく。	・部顧問との連携により部活動を通して様々なことを学んでいる。 ・1学期当初は大多数の生徒が加入していたが2学期以降の退部が目立ち、生徒自身の時間の使用の仕方に関する問題があるように思われる。 ・家庭学習と部活動の両立に悩む生徒が多かった。部活動を通じてもっと強い意志や体力、そして人間力を身につけてほしい。 ・専門進学の編成体制の整備が課題と思われる。
2学年の教育活動	学習関係	・基礎学力の向上	・漢字テストの不合格者を学年の5%以内にとどめる。 ・課題の提出率を100%にする。	B ・課題提出は教科担当、担任との連携で徹底的に指導できた。 ・ベネッセの実力テストは2月の結果が9月より下がり基礎学力の低下が心配される。 ・学年末においては平均80点以上の生徒42名、漢字満点者34名、英単語テスト満点者19名	・実施計画に基づき、正副担任の連携を図って、事前指導、事後指導を徹底する。 ・課題提出状況のチェックを確実にし、未提出者に対する指導を徹底する。	・「授業と部活動を真剣に」文武両道を目指す中で学習と部活動のバランス、また家庭学習時間の確保が今後の課題である。 ・進路目標達成のために商業・英語各種検定試験の合格率upを図る。
	生活関係	・基本的な生活習慣の確立	・全クラスの出席率98%以上及び皆勤・精勤70%以上を目指す。 ・違反行為者「0」を目指す。	C ・全クラス目標の98%の出席率を超え5クラスは99%以上の出席率であり、皆勤155名、精勤48名と7割以上の生徒が積極的に進路を見据えて生活している。 ・進路変更による退学者2名、生徒指導措置4件と中だるみが見られ	・家庭との連絡、保健室や教育相談との連携を密にする。 ・ホームルームや学年集会を利用して違反行為を未然に防ぐ指導を徹底する。	・進路指導と絡めて、生徒の自主性を育み、意識改革を行ってきたが、今後継続してその必要性が望まれ、スムーズに最上学年へシフトしたい。 ・学年全体で「ワンランク・up」を目標に、声かけをし、さまざまな行事や服装指導、セミナーを通して、個々の生徒とのコミュニケーションが図れたことは大きな成果であった。
	その他	・進路希望の達成	・職業意識、進路意識を明確に持たせることにより、3月までに進路目標を100%確定させる。	B ・進路との連携で学期ごとのテーマに従い、確実に進路啓発を行うことができた。 ・従来のインターンシップに代わり今年度からの新しい形で「職場・上級学校取材訪問」を試みたが、概ね成功し、進路選択に大いに役立った。	・職場・上級学校取材(星プラン)や修学旅行等各種特別活動の事前指導・事後指導を十分行い、世界観や視野を広げ、社会性を身に付けさせる。 また、職場・上級学校取材(星プラン)実施に向けて、企業や学校研究を行う。	・「職場・上級学校訪問」、「進路啓発セミナー」を体験して働くことの意義を考え、真剣に進路目標を設定することができた。ただし、さまざまな連携が重要になり、関わる職員との意思疎通が欠かせない。 ・多くの先生方の協力で「進路啓発セミナー」の模擬面接を無事終了した。それまでの過程で生徒の大きな成長が見られた。

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	評価及びその理由	具体的方策	成果と課題
		・部活動の活性化	・文武両道を前提としながら、95%以上の部活動加入率を目指す。	B ・前半で部活動を退部した生徒8名いたが、その後半数以上は他の部へ再入部した。 ・3年生引退後は学校の中核として各部で多くの生徒たちが活躍し、学校活性化に貢献している。	・部顧問との連携をとり、部員の活動を応援するとともに、未入部者への声かけを行い、部活動加入率アップを図る。	・今後も、文化部、運動部の多くの部活動で活躍、入賞し、学年のみならず学校全体にパワーを与えてもらいたい。 ・「授業と部活動を真剣に」を実現し、学校のリーダーとして牽引してほしい。
		・生徒会活動に積極的に参加する。	・各クラス2人以上、生徒会役員として活動させる。	A ・生徒会役員として11名の生徒が積極的に仕事をしてくれている。 ・企画、立案しさまざまなことにチャレンジし活動し、大いに評価できる。	・学校活性化に繋がるように、生徒会活動に参加させる。	・2年生から3年生へしっかり責任のある行動をとり、有言実行をしてもらいたい。 ・全生徒が生徒会活動に興味関心を持ち、協力し体制をしっかり整え、文化祭、体育祭が成功するように導いていきたい。
3学年の教育活動	学習関係	・基礎学力の向上と高度資格取得	・学年全体の評定平均値4.1以上を目指す。 ・各検定試験1級取得数のアップを目指す。 ・漢字テスト、英単語テスト満点を目指す。	B ・学年全体の評定平均値4.06で目標にやや届かなかったが、個人としては評定が上がった生徒が多かった。 ・全商検定の1級に3種目以上合格した者が113名に達した。 ・漢字テストの年間満点は22名、英単語テストの年間満点は23名とやや少なく、また漢字テストについては毎回不合格者が出てしまった。	・ホームルーム・個人面談・学年集会等を利用して、希望進路の実現に向けて評定平均値のアップと高度資格取得の重要性を再確認させ、学習意欲を喚起する。	・学習成績に関しては、特に下位層の生徒たちが努力して評定を上げることができた。また検定に関しては、進路内定後も積極的に挑戦する生徒が多かったのはよかった。 ・漢字テスト・英単語テストへの取り組みについては、事前の学習プリント配布などで頑張る生徒も多かったが、学年全体としてもう少し盛り上げる必要があった。
		・基本的生活習慣の確立	・出席率99%以上および皆勤 ・精勤生徒80%以上を目指す。	B ・学年全体の出席率99.1%で、7クラス中5クラスが99%以上を達成した。 ・1カ年皆勤142名、精勤48名で69%しかたっていけなかった。しかし3年間の皆勤は73名、精勤が49名と、よく頑張ってくれた。	・ホームルーム・個人面談・学年集会を利用して、自立した社会人のなるために、自己管理(生活・健康)の重要性を認識させ、欠席者数の減少を図る。	・1学期は各クラスとも「休まない」という雰囲気が高く、特に高い出席率を維持できた。しかし2学期以降に(風邪などがははやったこともあるが)欠席が増えてしまった。体調管理の呼びかけと、安易に遅刻・欠席をさせない雰囲気作りには工夫が必要だった。
	その他	・希望進路の実現	・年度内進路決定率100%を目指す。	A ・2月22日に全員の進路を決定することができた。	・進路指導課との連携を密にし、全体指導・個別指導を通して、段階的・計画的に進路研究および受験対策に取り組ませる。	・就職については、景気が厳しく求人が大きく落ち込む中、生徒たちの高い意識とたくさんの方の協力により比較的早い時期に進路内定を勝ち取ることができた。しかし評定が良くても落ちてくる生徒もおり、基礎学力の向上と面接対策の一層の強化が必要である。 ・進学については、難関校へチャレンジする生徒が増えたことで一般試験まで来たこと生徒はいたが、担任等の細かいフォローを必要とした。
		・特別活動の充実	・各部活動各種大会上位入賞を目指す。 ・学校祭のアンケートで満足度90%以上を目指す。	B ・野球部が夏の佐賀県予選の決勝で敗れたものの多くの応援の中で見事なプレーし、感動を与えた。 ・高校総体は、例年並みの結果を残した。文化部も各種大会で優秀な成績をおさめた。 ・体育祭・文化祭ともに、3年生が中心となり成功させ、高い達成感・満足感を得ることができた。	・ホームルーム・学年集会等を利用して、部活動や学校行事(学校祭等)に積極的に参加し、高校生活最後の思い出を作るとともに、集団行動の中で人間力を磨くよう指導する。	・部活動に関しては、最上級生という自覚と、悔いのないようやりきることを学年集会やホームルーム等で繰り返し生徒にうたえた。早くからみんなで頑張っていこうという雰囲気ができたのがよかったと思う。学校際に関しては、就職試験やAO入試等職員・生徒とも進路面でも大変な時期であるため、学校全体の協力体制がなお一層必要である。また生徒の意識のバランスをとることも難しいので、工夫が必要である。
	ITを活用した授業	・教職員全員が情報機器を活用した授業を行う。	B ・ITを活用して、生徒に分かりやすい授業を行うようにした。パワーポイントだけではなく動画を導入し、視覚に訴える授業を試みた。	・情報機器を活用した授業を全教諭が学期に1回実施する。	・教科によって導入しやすいものと、そうでない教科と温度差が出てしまった。年間を通した緻密な立案が必要と反省した。	

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	評価及びその理由	具体的方策	成果と課題
特定課題 学校の個性化		・特色ある教育課程の編成	・国際経済科の募集停止に伴い、国際経済科の特徴を引き継ぐ教育課程の編成をおこなう。・学科の特長を生かしながら新学習指導要領に向けた特色ある教育課程の編成に取り組む。	・学科の再編整備を見据え、各学科の特徴を明確にする教育課程編成のため、各学科主任と新学習指導要領導入や学科改編の検討をおこなった。 A	・生徒の興味関心や進路希望等に対応したコースを設け、教育目標や年間計画を明確にする。 ・アンケート等を通して実態を把握する。 ・新学習指導要領の内容を検討する。	・新学習指導要領に対応するため、新科目を学校設定科目として設定し、スムーズに学習指導要録の改訂に対応できるような教育課程を編成することが出来た。
		・外部講師の活用	・年間指導計画に沿った最低20時間以上の実施	・生徒の進路実現や高度資格取得、コミュニケーション能力の育成など様々な分野の講師の先生を招聘し、効果的な講演会を実現できた。 A	・生徒の多様な興味・関心に応えるとともに、より高度な資格取得や発展的な学習に結びつける。	・生徒の3年間を見据えた、長期的な展望での計画立案も今後の課題である。
		・大学等との連携への取り組み	・大学等との連携の基盤づくり (連携先検討)	・地元の大学主催の起業家教育のイベントに積極的に参加し、大学との連携を深めることができた。 A	・高度資格(日商簿記1級)を取得させたり、大学の活動に参加するなど高大連携の基盤づくりを目指し、教育内容を充実させる。	・資格取得、新学習指導要領など大学等との連携で効果的な教育内容が期待できるので、今後も模索しながら研究を深めたい。r
		・起業家教育の推進	・起業家教育の定着 ・知的財産教育の充実	・本校が開催している「きゃーもん祭」で起業家教育を体験的に学習させる。また、知的財産権についても授業の中などで鋭意指導する。 A	・企業を興すまでの一連の流れ学習や新商品開発を目指すことで、将来の起業家の育成を図る。 ・特許庁のテキスト利用から、興味関心を喚起する。	・新学習指導要領でも起業家教育の充実が問われている。今後、本校でさらに推進していくための具体的な内容を検討する必要がある。

6. 総合評価

・本年度は、各項目において良い評価を得ることができた。ただ、十分でない項目については引き続き改善が必要となる。特に今年度は厳しい経済状況にも関わらず、生徒の進路実現を達成できたことはたいへんよかった。これは一部の職員だけでなくそれぞれの分野の職員が一致協力してこそ達成できたと考え。今後とも、PDCAを活用した組織力の強化で、諸問題を積極的に解決しようとする姿勢を持ち続けていきたい。

7. 来年度への改善策

・生徒の自宅学習の確保。教育週間における保護者の出席率の向上のための教育参観日の設定などの方策。基礎学力定着のための数学の基礎学力テストの導入。今年度同様生徒の進路実現のため、教科指導の充実や個人面談の徹底指導。さらには、部活動のさらなる活性化のための検討等を随時行い、生徒・保護者から「行きたい学校」「来て良かった学校」づくりに取り組むたい。